

教材教具説明シート

名称	いろいろぽっとん落とし		
関係する教科等	自立活動	区分・項目	4 区分・(4) 5 区分・(3)
使用対象	知的障害・自閉症		
使用目的	<ul style="list-style-type: none"> ・手指の巧緻性の向上 ・色と形のマッチング ・言語理解の向上 ・手と目の協応 ・コミュニケーション能力向上 		
活用時の様子	<p>初めは、どの形状の物も一番大きな穴からすべて入れてしまうことが多かったが、教師が手本を示すことで、形状に合わせた穴に適切な大きさの物を入れることを理解した。繰り返しの取組で、教師の色や形を表す言葉がけを聞いて、大きな穴にはペットボトルキャップ、小さな穴にパイプストロー、四角の穴に厚紙と、分けて入れることができるようになった。穴の形状を確認し、それに合わせて正しく選び入れようとするが増えてきた。</p> <p>また、ひもは、大きな穴から片手で入れていた。教師が手に触れて繰り返し取り組むうちに、両手の親指と人差し指を使ってひもを伸ばし、ペットボトルの口から慎重に入れるなど変化が見られた。</p>		
効果・改善点等	<p>【効果】</p> <p>この課題を自立活動の時間の始めに行うことで、活動全体に見通しをもち、その後の活動にも落ち着いて取り組めるようになった。</p> <p>また、袋に物を入れたり、風呂敷に衣服を包んだりするときには、両手で行ったり、風呂敷の先端を親指と人差し指でつまんだりすることができるようになった。その際には手元に注目し、風呂敷の先端を色で見分けて対面を持つことができるようになった。</p> <p>この課題を繰り返すことで、教師の言葉がけが伝わりやすくなったり、教師との言葉のやり取りが増えたりするなど日常生活にも変化がでてきている。</p> <p>【改善点等】</p> <p>慣れるにつれて、厚紙を三枚くらい束ねて入れようとしたり、ストローをまとめて穴に入れたりすることがあったため、ストローに合わせた細い穴を追加したり、厚紙が一枚ずつしか入らない形状に修正したりして課題を変化させていくとより効果が期待できると考える。</p> <p>今後、より細いストローを使う、ひもをもっと長くする、厚紙の長さを変えるなどして発展させながら、引き続き使っていきたい。</p>		